

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	グループホームやまと		
開催日時	令和8年1月21日 13:30~15:15		
開催場所	法人本部棟2階会議室		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	5名	管理者、課長、サービス管理責任者
	入居者	1名	
	入居者ご家族	1名	
	地域の関係者	1名	民生児童委員
	福祉・経営に知見を有する方	1名	市内生活介護事業所管理者
	市町村担当職員	1名	市障がい福祉課職員
会議概要・議題	<p>会議名：地域連携推進会議</p> <p>目的：グループホームおよび入所施設の運営状況、支援の現状と課題について地域関係者と共有し、今後の支援の質向上につなげること</p> <p>内容：1. 事業説明 ①事業所・法人の概要説明 ②利用者支援の現状と工夫 ③地域・相談支援・行政との連携 ④事業所・法人の課題等 ⑤その他 2. 意見交換 3. 施設見学</p>		
議内容・意見等	<p>1 グループホーム及び入所施設の現状と今後の方向性について</p> <p>(1) 利用者本人からの生活状況の共有 グループホームで生活されている利用者本人より、「生活は楽しい」「仕事や、職員が考えてくれる行事が楽しみである」との発言があった。 これを受け、事業所側からは、本人が前向きに生活されていることへの感謝 個別支援計画策定時にも同様の声が聞かれていることが共有された。</p> <p>(2) 家族（保護者）からの意見 女性利用者同士のコミュニケーションが必ずしも円滑でない場面があること 意図せず相手に嫌な思いをさせてしまっていないか心配していることなど、 日常生活における人間関係への配慮について意見が出された。 これに対し事業所側からは、利用者それぞれに個性はあるが、全体としては</p>		

比較的落ち着いて生活されていること、感染症流行時など制限の多い状況においても、大きな混乱なく過ごされていることについて現状説明がなされた。

(3) 定員状況および短期入所に関する質疑

委員より、

グループホームの定員充足状況、短期入所や新規利用の可能性について質問があった。

事業所側からは、

現在グループホームは満床であること

空室があっても、夜間・早朝を含む人員配置基準を満たすための職員確保が困難であり、受け入れを制限せざるを得ない状況であること、短期入所は主に入所施設で対応しており、週末はほぼ満床状態が続いていることが説明された。

(4) グループホームと入所施設の制度的整理

事業所側より、

当法人のグループホームは介護包括型であり、主に夜間・休日の生活支援を担い、昼間は通所事業所等を利用することが原則であること、入所施設は昼間の生活介護と夜間の入所支援が一体的に提供されていることについて、制度上の違いが説明された。

(5) 国の施策と今後の課題

事業所側から、

国の方針は、地域生活への移行を進める方向であること、障害者権利条約に基づき、「集団で暮らす」形態よりも、本人の意思決定を尊重した地域生活が重視されていることが説明された一方で、現状においては障害理解、人材確保、制度上の制約などにより、理想と現実の間に大きな課題があることが共有された。

また、65歳到達後に介護保険制度へ移行する際、これまで利用してきた障害福祉サービスの継続が難しくなる、いわゆる「65歳の壁」についても、今後の課題として説明がなされた。

(6) 委員からの所感

障害分野だけでなく、児童分野においても「集団から地域へ」という流れが見られるのではないかと、世界的な基準と日本社会の現状との差について考えさせられたとの所感が述べられた。

2 個別支援計画のあり方と実践上の課題について

(1) 委員からの意見

個別支援計画に至る前段階の計画（アセスメントや基本計画）を拝見し、あるべき対応が取られていることは理解できる。個別支援計画を起点にサービスが広がり、組み合わせさっていくことが理想であるが、現実には必要なサービスの「ピース」が揃わない場面が多いこと、制度や地域資源の制約によ

り、専門職が苦慮している状況があることが指摘された。

(2) 事業所側からの発言

サービス管理責任者が、職員とともに個別支援計画の作成に関わっていること、「目の前の一人が、どうすればよりよく、より幸せに生活できるか」を常に考えながら計画を立てていること、障害特性を踏まえつつ、成長や変化、本人の意思をどのように計画に反映させるかについて、試行錯誤していることが共有された。

(3) 家族（保護者）からの受け止め

計画内容を読み、本人に合った内容で考えてもらっていると感じていること本人が仕事を楽しんでいる様子を聞いており、現状としては納得していることが述べられた。一方で、興奮時の対応など、現場職員の負担やご苦勞の大きさを感じていること、支援の難しさに対し、頭が下がる思いであることといった率直な気持ちも語られた。

(4) 利用者本人の発言

「職員は個別支援計画をちゃんとやってくれている」との発言があり、支援への信頼感が示された。

3 意見交換のまとめ・所感共有

参加者からは、

- ・非常に勉強になった
- ・職員の大変さや努力を初めて具体的に知ることができた
- ・前向きな取り組み姿勢に刺激を受けた

といった感想が多く聞かれた。

同業種の参加者からは、

- ・多くの課題を抱えながらも支援を継続している現場への共感
 - ・大きな組織の中でチームとして支援が成り立っている点への評価
- が述べられた。

事業所側からは、

- ・課題を課題として受け止めつつ、できるところから改善を重ねていきたい
 - ・利用者・家族の声を大切に、責任ある事業運営を継続していきたい
- との姿勢が示された。

4 閉会

座長より、長時間にわたる参加への謝意が述べられ、会議の終了が宣言された。

以上をもって、地域連携推進会議を終了した。

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	グループホームやまと		
開催日時	令和8年1月21日 15:15~16:00		
開催場所	グループホームやまと・なでしこ・かりん		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	5名	管理者、課長、サービス管理責任者
	入居者	1名	
	入居者ご家族	1名	
	地域の関係者	1名	民生児童委員
	福祉・経営に知見を有する方	1名	市内生活介護事業所管理者
	市町村担当職員	1名	市障がい福祉課職員
見学時の説明・感想等	<p>i. 生活環境・日常生活に関する説明</p> <p>職員より説明等</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事は厨房で調理したものを、利用者と職員と一緒に運び、1階食堂にて配膳していることの説明。 入浴については、利用者の体調や希望を踏まえ、順番を調整しながら実施していることの説明。 日常生活の流れや支援の様子について説明を行い、併せて浴室内の見学を実施した。 <p>委員からの発言等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「けっこう広いですね」等（複数の委員より）居室や共用スペースの広さについて好意的な感想が聞かれた。 		
	<p>2. 居室・共用スペースに関する質疑・感想</p> <p>委員からの質問・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 居室や共有スペースについて、「思っていたよりもゆとりがある」との声があった。 利用者が落ち着いて生活できる環境であるとの印象が共有された <p>職員より補足説明等</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者が安心して過ごせるよう、動線や配置を工夫していることの説明。 生活の中で職員が過度に介入しすぎないように配慮していることの説明。 		
	<p>3. 見学全体を通しての意見交換</p> <p>委員からの意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の生活の様子を見ることで、支援内容が具体的に理解できた。 利用者と職員の距離感が適切であるとの評価があった。 <p>職員からの回答・所感等</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も地域の方に開かれた事業所として、見学や情報共有の機会を大切にしていきたい。 		

4. まとめ

- 施設見学を通じて、利用者の日常生活や支援の実際について理解が深まった。
- 生活環境や支援体制について、委員から概ね肯定的な意見が多く聞かれた。
- 今後も地域連携推進会議の場を活用し、継続的な情報共有と意見交換を行っていくことが確認された。